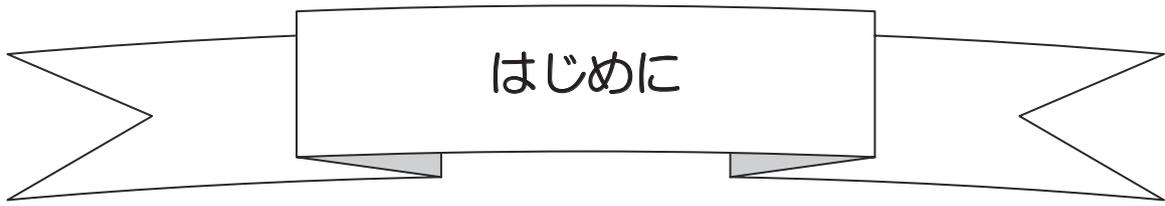


子どもたちへのメッセージ集 2011

～ 命の尊さと震災の教訓を語り継ぐ ～





へいせい ねん がつ にち はんしん あわじ だいしんさい
平成7年1月17日、阪神・淡路大震災があり、

おお かた な いえ うしな
多くの方が亡くなり、家を失いました。

だいさいがい けいけん かた いのち たいせつ
その大災害を経験された方たちから、命の大切さ

しんさい まな こ つた
や震災から学んだことを子どもたちに伝えるために

よ の
寄せられたメッセージを載せています。

みなさん、ぜひ読んでみてください。

子どもたちへのメッセージ集 2011

～命の尊さと震災の教訓を語り継ぐ～

も く じ

- ☒ 子どもたちへのメッセージ (25通)
 - 震災当時の様子・自然の怖さ …… 1 ページ
 - 生きる大切さ …… 10 ページ
 - 感謝の気持ち (助け合い) …… 19 ページ
 - 地震への備え …… 28 ページ
 - ※ 内容によってテーマ分類しています。
 - ※ 経験や想いを尊重してお伝えするため、誤字・脱字を除き、メッセージを原文どおり掲載しています。

 - ☒ 舞子高校生からのメッセージ (2通) …… 32 ページ

 - ☒ メ モ …… 34 ページ

 - ☒ 子どもたちからの感想文 (6通) …… 35 ページ

 - ☒ しあわせ運べるように …… 38 ページ

 - ☒ さいごに / 子どもたちへのメッセージ運動の概要 …… 39 ページ

 - ☒ 阪神・淡路大震災関連資料 …… 40 ページ
- ※ 阪神・淡路大震災関連資料は、「震災10年～神戸の記録～」(平成16年10月神戸市広報課発行)と「阪神・淡路大震災被災状況及び復興への取り組み状況」(平成23年1月1日現在)によるものです。

～ 子どもたちへ ～

はんしん あわじ だいしんさい ねん まいとし がつ にち く あ がた さむ
阪神・淡路大震災から16年。毎年1月17日が来ると、明け方の寒さ
と、ドーンという今まで感じたことのない揺れを娘たちと恐怖に震え
ながら、数分の時間がとても長く感じたことが思い出されます。

きたく ひ がい すく きんじょ こわ かおく
北区は被害が少なく、近所も壊れた家屋もなかったです。でもテレ
ビで三宮及び長田区の火災、消防自動車が地震のため道路が通れず
に、みすみす焼ける家をボー然とみているしかない方々をみて、胸がつ
ぶれる思いでした。

なん おも ちいき ふじんかい かいちょう そうだん と
何とかしなければと思い、地域の婦人会の会長に相談して、取りあ
えず食べ物を届けよることにしました。すぐに食べられ他にも利用できる
おにぎりが良いということで、おにぎりを作ることになりました。

のうそんちたい かくじ こめ も よ のうそんかんきょう
農村地帯でしたので、各自がお米を持ち寄り、農村環境センターを
かりきって、おにぎり作りを始めました。最初は500個つくりました。
でもおにぎりを作ったのは良いが、被災地まではどう運んだら良いのか
困りました。北消防署に相談したら、運んであげますということでお
ねが 願いしました。それから毎日おにぎり作りをしました。最初は数人で始
めましたが、だんだんお手伝いする方が増え、小学校のPTAの方々
も参加して多いときは、約30の人がボランティアでおにぎりを作りま
した。お米は農政局が負担してくださって、1日210キロのお米を炊き、
1日5000個のおにぎりをにぎりしました。そして小学校の子供たちのメ
ッセージを書いた折鶴を添えて、1月17日から、約1か月余被災地へ
おにぎりを送り続けました。

このおにぎり^{づく}作りのみんなの^{おも}思いは、同じ神戸市民^{おな こうべしみん}でありながら、今回^{こんかい}
は被害^{ひがい}が少^{すく}なかった私^{わたし}たちが何^{なん}とか、震災^{しんさい}にあった方^{かた}を励^{はげ}ましたいと
の気持ち^{きもち}が、自然^{しぜん}に芽^め生^ばえてのおにぎり^{づく}作りでした。

いっこ^{いっこ}のおにぎりに込^こめられた思い^{おも}の暖^{あたた}かさが伝^{つた}わって下^{くだ}さっていた
らと、今^{いま}もおにぎり^みを見ると当^{とう}時^じを思^{おも}い出^だします。



～ 子どもたちへ ～

あの日の朝は、10カ月の息子に授乳をした後で、私と長男はぐっ
すりと深い眠りについていました。

下からつきあげる振動にも気持ちいいぐらいの感じでしたら、突然主人
が布団の上ののってきたので目がさめました。

柱時計から守ってくれていたのです。

その時もまだ息子は眠っていました。

明るくなっていく中で、今までにないことが起こったことがわかりま
した。

そこで、我が家では息子のことを考えて、電気が通っている兵庫区
の実家へ移動しました。

運河が近くなので、下水の確保もできました。飲み水は主人が北区の
職場から70Lのポリバケツに2ツ持ってきました。

全て10カ月の息子のために、大人7人が心1つにして動きました。

地震のことなど全くわからない赤子に、大人は救われていました。

息子の泣く声が、我が家だけでなく、同じマンションの方々にも何か
ひと息ついてもらえる感じでした。

人間って、生まれた時から人に支えられ、又支えていることを、改
めて感じました。

～ 子どもたちへ ～

わたし はは せんじちゅうこうべ ひめじ ほう そかい ひがし ほう
 私の母は戦時中神戸から姫路の方に疎開していましたが、東の方
 み じぶんたち りょうしん ひょうごく ほう み
 を見ると、自分達の両親がいる兵庫区の方が見えたそうです。

くろ けむり み しんばい な
 黒い煙を見て心配で泣きつづけていました。

おや こども あんぜん ところ とき
 でも親は子供が安全な所にいるので、その時どうしてもしなければ
 しごと で き
 ならない仕事ができるのですね。

わたし しんさい いえ ぜんしょう けっこん ねんめ しんこん
 私が震災にあって家が全焼したのは、結婚2年目のことでした。新婚
 せいかつ かぐ ふく ねん のこ
 生活のためにそろえた家具や服、そしてまだ15年も残っているローン
 こと かんが しごと やま
 の事を考えるとショックでしたが、やらなければならない仕事が山の
 まいにちな ほど
 ようにあり、毎日泣くひまもない程いそがしくしていました。

ひ み きやまこうえん きゅうえんぶっし い とき おの しょうぼうし
 ある日三木山公園に救 援物資をもらいに行った時、小野の消防士さ
 ぼく ひょうごくまでい みず いえ
 んに「僕らは兵庫区迄行ったけど、水がなくて家をまもってあげれん
 な
 かった。すまんかったね」と泣きながらあやまってくれました。

わたし しんさい ご なみだ なが で き
 私も震災後はじめて涙を流すことができました。

なに たいせつ いのち
 何よりも大切なのは命です。

つぎ たいせつ ひと ひと おも
 次に大切なのは、人と人とのつながりだと思えます。

しんさい あと わたしたちふうふ とも せんゆう かんけい
 あの震災の後では、私達夫婦は、共にたちむかった戦友のような関係
 おも
 になっていると思えます。

平成22年12月1日

真帆子 より

～ 子どもたちへ ～

あの日からもう16年、お兄ちゃんが5年生になり、やっとメッセージを書いてみようという気持ちになりました。

あの時わたしは21才、亡くなった友達は20才でした。

1人暮らしを始めた彼女の家に泊まりで遊びに行った日の朝、あの地震がおきました。わたしと彼女は2階の下敷きになりました。ほんのわずかなスペースがあり、かろうじて顔を動かせる状態でした。

もう死ぬんやと思いました。

「明日の新聞にのるのかな」「こうなるなら、インフルエンザで仕事を休みたいなんて思わなければよかった」「死ぬときって意外と冷静なんやな」「父や母にありがとう、ごめんねと言えないことが一番悲しいな」

「こんなことをしてたらあかん」そう思ってから、必死で叫びました。「助けて」「早く助けて」「息が苦しい」何回も叫びました。

8時頃、幸いにも早くに助け出されました。でもわたしにとっては、とても長い時間でした。今でも胸が苦しいです。

亡くなった彼女のお父さんが、「あなたには娘の分まで幸せになってほしい、何か1つでいい、人より幸せだと思うものを見つけて、幸せになって下さい」と言って下さいました。

わたしは今、彼女の分まで幸せに生きることができてるんでしょうか？ その答えは、まだ今はここには書きたくありません。

平成23年1月7日

会いたい より

～ 子どもたちへ ～

はんしんあわじだいしんさいは、お母^{かあ}さんが高校生^{こうこうせい}のときでした。

お母^{かあ}さんがすんでいたところは、あまりひどくなかったけれど、テレビでこうべがたいへんなことになっているとしりました。

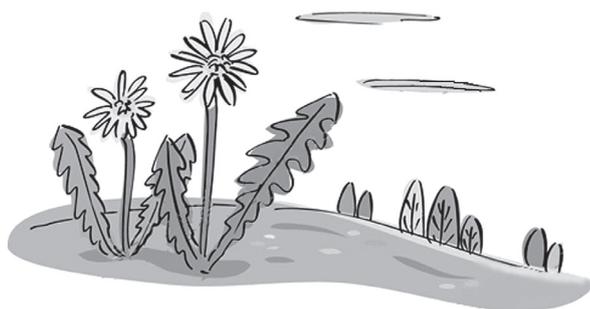
高校生^{こうこうせい}だったお母^{かあ}さんは、でんしゃがとまってしまったので、学校^{がっこう}にいけず何日^{なんにち}も学校^{がっこう}をやすまなければなりませんでした。ともだちともれんらくがとれず、なにがなんだかわからないくらいでした。

テレビでは火^かさいもおこり、しょくりょうぶそくになり、がれきのしたじきになってしんでしまった人^{ひと}もいるとテレビでしりました。

ものすごいきおいで、つくようにゆれて、ほんとうにこわかったです。

私^{わたし}たちのちいきであれぐらいですんでほんとうに助^{たす}かりました。

高校生^{こうこうせい}だった私^{わたし}は自分^{じぶん}のことでせいいっぱいで、まわりがたいへんなめにあっても、あまり耳^{みみ}をかたおけることもなかったけれど、今^{いま}なら、せんとうにたってなにか人^{ひと}のやくにたちたいと思^{おも}います。



立石 千鶴 より

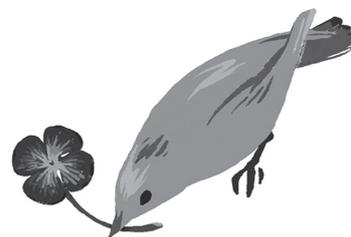
～ 子どもたちへ ～

みらい
『未来をまかされたいのち』

「あの震災から何年たちました・・・」と
テレビでニュースが流れています。

もうそんなに経ったのかと思います。

もう今の小学生は、震災を経験した人はいないんですね。



おじさんは、地震はたったいま起こった出来事のように感じています。

心も身体もはっきりと、あの日のことを覚えているのです。

大好きな神戸の街が、ゴミ箱をひっくりかえしたみたいに汚れてしま
い、死んでしまったり、怪我をした人でいっぱいになりました。

時々、夢にその景色がうかびます。

その時の小学生たちは大人と一緒に困っている人を助けて大活躍し
ました。

全国や海外から届いた食べ物、飲み物、衣類や薬を避難所へ届けた
りしました。

何度も水をくみにいたり、近所の人元気がどうかとか、必要な
ものがないかを、聞いて回ったりもしました。

その時の小学生は、皆さんのお父さんお母さんかもしれません。

その時の助けられた人は、皆さんのお父さんお母さんかもしれません。

えきでん うんどうかい ひと ひと
駅伝のたすきや運動会のリレーのバトンのように、人と人のつな
がりがなければ、いま みな いま じんせい
今の皆さんは、今のあなたの人生をスタートすること、
う でき
産まれてくることすら出来なかったのです。

さいきん ひと け が あば もの こわ しょう
最近、グループで人に怪我をさせたり、暴れて物を壊したりする小
がくせい で あ こま まち ひと そうだん う おお
学生に出会ったり、困っていると街の人から相談を受けることが多く
なりました。とても ざんねん おも
残念に思っています。

いのちのエネルギーのむだづか じぶん ひと
いのちのエネルギーの無駄遣いをしています。自分のためにも人のた
めにもならないことに、エネルギーをつか
を使っています。

ひと やく た つか むだ
人の役に立ついのちのエネルギーなら、いくら使っても無駄ではあり
ません。そのエネルギーは、きっといつかリサイクルされて、あなたに
かえ
帰ってきます。

ほんとう
本当ですよ。

おじさんが じんさい たす おお ひと たす き ぶ じ
おじさんが震災で助かったときに多くの方が訪ねて来てくれて、無事
な よろこ
を泣いて喜んでくれました。生きていてよかったと思いました。

おじさんも みな ま
おじさんも皆さんに負けないように、がんばって生きていきます。

みな みらい
皆さんのいのちは、未来をまかされたいのちです。

がんばって生きてくださいね。

平成 23 年 1 月 7 日

山口 正清 より

～ 子どもたちへ ～

阪神・淡路大震災では、6434人もの方が亡くなり、たくさんの家がこわれ、たくさんの人たちが避難をしました。

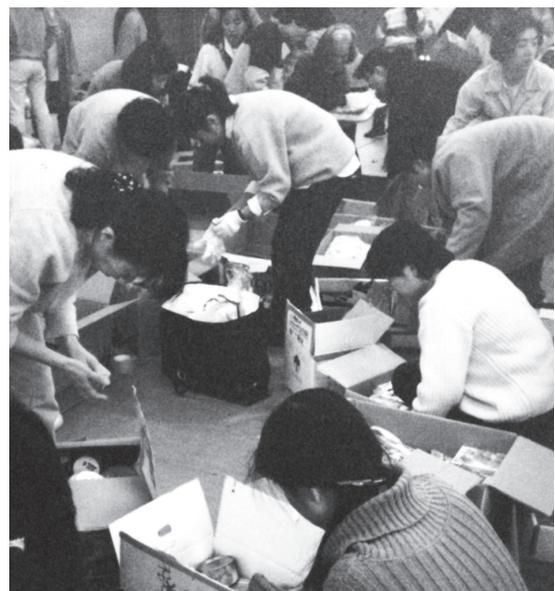
学校の体育館などの避難所で、不安な気持ちで暮らしている人たちに、全国の人たちが励ましの手紙や救 援物資（品物）を送って助けてくれました。

この写真は、当時の神戸市立外国語大学での様子です。

集められた救 援物資を、学生さんと被害の少なかった西区の人たちが、「水」「毛布」「カップラーメン」「缶づめ」など、種類別に仕分けをしました。

そして、やはりボランティアの方が、トラックで避難所に届けてくれました。

「お互いさま」「助け合い」、そんなあたたかい気持ちがあふれていました。



生きる大切さ

～ 子どもたちへ ～

「なあ、母ちゃん、『しあわせ』って何？」

「〇〇って何？」が口ぐせの、小さな君のいつもの問いかけに、お母ちゃんはこたえにつまりました。

君は「やかんって何？」とか、「お正月って何？」とか、そんな質問と同じように、母ちゃんに投げかけてくれたけど、それってけっこうムズカシイ、深いモンダイなんだよ。

「毎日、朝おはようって起きて、おいしいなあってごはんを食べて、元気にあそんで、おやすみーって寝ること・・・かな？」

「そんなん、いつもやんか。ふつうが『しあわせ』なん？」

「『ふつう』って、すごいことやねんで」

「そうか」

ふつうのしあわせが、急に、突然なくなってしまうことがある、震災がおしえてくれたことです。

君が、『ふつう』のしあわせを大事に思ってくれたら、

『ふつう』をなくした人にそっとよりそえる人になってくれたら、

お母ちゃんは しあわせです。

平成22年11月28日

ぐうたらかあちゃん より

～ 子どもたちへ ～

1年生を受け持っていたわたしは、地震の直後には、長田区の自宅から、東灘区にある自分の学校へ行くことはできませんでした。悲しい知らせは、クラスのお母様の一人から、しばらくして届きました。

その子の名前は、ゆうじくんと言いました。家の下敷きになって、お父様と共になくなったと・・・。

とにかく会わねばと、3時間近くかけて遺体安置所である灘高の体育館へ自転車を走らせました。

眠っているようだったふっくらとした、まだ幼い顔の長いまつげが、今も忘れられません。7才になるかならないかだったのです。

友だちと走り回りたかったことでしょう。

ゲームもしたかったことでしょう。

お母さんにだっこしてもらいたかったでしょう。

家族で遊園地へも出かけたかったことでしょう。

大きな声で歌いたかったことでしょう・・・

やりたいことをいっぱい残したまま、亡くなってしまいました。

今、あなたたちはどれもできます。ひょっとして、ひとを傷つけることも・・・。

でも一日一日を大切に生きてほしい。ゆうじくんができなかったことができるのだから。

ゆうじくんに恥ずかしくないように生きてほしいと心から願います。

2011年1月17日

ゆうじくんの先生 より

未来

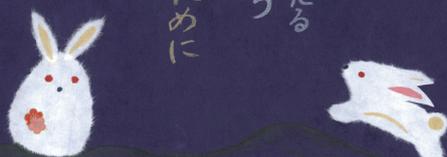
引くな
ひるむな
おそるな
正義は勝つ
必ず勝つ
神様信じて
正しい道を歩いて行こう

自分の未来のために

ゆれるな
なびくな
流されるな
はきりとノリが言える
強い人間になろう

泣くな
なげくな
落ち込むな
雨が降るから
草木が育ち
花も咲く
強く・果敢と
希望を持って
生きて行こう

自分の未来の為に



子供達へのメッセージ 香苑作

心

心は笑っていますか
心は泣いていますか
心は怒っていますか
心が聞こえますか
自分の心は何と言っていますか
あの心は何と言っていますか
人の心ばかり気にして
自分の心眠っていませんか
自分の心とばかりで
あの人の心無視していませんか
心と心が触れ合った時
その心愛があることに気づく

天朝かく

～ 子どもたちへ ～

さいきん わたし さっし ことば め
最近 私は ある冊子で こんな言葉を目にしました。

もしも あなたが^{いま}今 この^よ世を去ってしまったとしたら
あなたは ^{なに}何をすればよかったですか？

もしも あなたの^{たいせつ}大切な^{ひと}人が この^よ世を去ってしまったら
あなたは ^{なに}何をしてあげればよかったですか？

それが^{いま}今、なすべきことです

^{いま}今、^{いちばんたいせつ}一番大切なことです

^{あした}明日があると^{おも}思う^{こころ}心が、^{ゆだん}油断を^う生みます。

^{しんさい}震災は^{いっしゅん}一瞬にして ^{こうべ}神戸の^{まち}町を^か変えてしまいました。

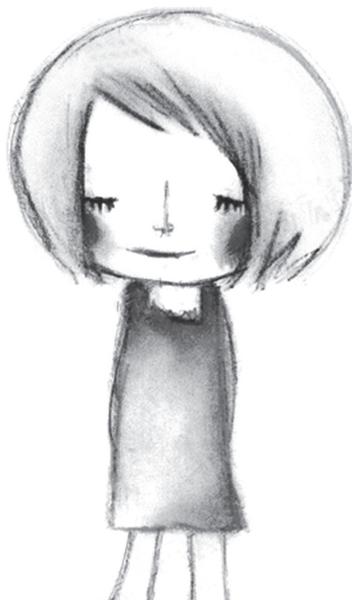
^{あした}明日、^{なに}何が^お起こっても ^{こうかい}後悔しないよう ^{いま}今の一瞬一瞬を
^{たいせつ}大切に^い生きて^い行きたいと^{おも}思っています。

～ 子どもたちへ ～

とても怖こわかったです。
地球ちきゅうが怒おこっているような すごい音おとで
家いえもペチャンコになりました。
家族かぞくみんな生いきているだけで
何なにも残のこらなかつたけれど
それだけが 本ほん当とうに 良よかったです。

お父とうさん お母かあさんや 兄きょうだい弟なを亡ひとくした人が
まわりにたくさんいました。

毎まい日にち 笑わらったり、おこったりできることに
かんしゃしたいです。



冴来 美恵 より

～ 子どもたちへ ～

わたし ちゅうおうく しんさい いえ ぜんかい ちか そうぎじょう
私は、中央区で震災にあいました。家は、全壊で、近くの葬儀場が
へ や ていきょう ごきんじょ かたがた ひなん いただ
部屋を提供してくださり、御近所の方々と避難させて頂きました。
でんき ひるす かいつう すいどう と すうじつ す
電気は、昼過ぎに開通しましたが、水道は止まったまま、数日も過
しました。食べる物もなく、辛い時、葬儀場の方々が、ペットボトル
みず り つく くだ
の水でごはんをたいてくださり、1人おにぎり1コを作って下さいまし
た。

まいにち なか なん た よ なか か い
毎日お腹がすくと何でも食べれる世の中、なければ買いに行けばなん
か まえ じょうきょう せいかつ わたし なか た
でも買える、あたり前の状況で生活していた私の中で、食べれない、
もちろん買いに行っても、お店自体も壊れていて開店していない
じょうきょう じゃぐち まえ で みず てき みず
状況、蛇口をひねれば、あたり前に出る水が、ひねっても1滴の水さ
で まえ まえ きづ かんしゃ か
えも出ず、あたり前があたり前じゃないことに気付き、感謝に変わりました。

たくさん かたがた いっしょ せいかつ みな こえ ささ あ さむ
沢山の方々と一緒に生活をして、皆で声をかけあい、支え合い、寒い
なかもうふ せいかつ ひとびと あたた やさ おも たくさん
中毛布にくるまりの生活で、人々の温かさ、優しさ、思いやりを沢山
こころ いただ
心に頂きました。

ひと り い つら くる よしん
人は1人では生きていけないんだと、辛く、苦しく、余震におびえる
ひび たくさん すば けいけん いただ おも
日々でしたが、沢山の素晴らしい経験をさせて頂けたと思います。

わたしたちかぞく しゅうかんほど おとうと す にしわき ひなん ふだん
私達家族は、1週間程で、弟の住む西脇へ避難しましたが、普段
まいにち ふろ はい きも わる みず かお あら
では毎日お風呂に入らないと気持ちが悪く、きれいな水で顔を洗いが

あたり前まえだったのが、少しすこのきれいみずな水ちかは（近くやまの山くに汲いみいに行った。）
 のようの、たらいはいに入った水みずで皆みなで顔かおを洗あらい、神戸こうべにいる間あいだお風呂ふろなど
 入はいれるはずはもなく、逆ぎゃくに服ふくをぬぐこわのも恐じょうきようい状とき況じしんで（ぬいだ時とき、地震じしん
 が起おきる恐きようふ怖おとうとで）、弟いえの家ふくについて、はじめて服ふくをぬいあたたいで、温あたたかい
 お風呂ふろにつかときった時すうぶんかん、数分間くごとに來ゆる揺かいほうれから開とき放じぶんされた時とき、自分じぶんで
 も驚おどろく程ほどの涙なみだであふれ、体からだ中じゅうは沢山たくさんのあざと傷きずだらけだったけど、
 生いきている事ことの素す晴ばらしさと、皆みなが支さえて下くださったからとの感かん謝しゃで
 いっぱい
 一杯いっぱいになりました。

全すべてがあたり前まえではない世よの中なか、又また今いまあたり前まえになっきて來きていたり、
 命いのちの大切たいせつさを知しらずに、命いのちを絶たつ人ひとが增ふえている事ことに悲かなしく思おもいま
 す。

もう一いち度ど皆みなで、この体たい験けんを話はなして、あたり前まえではない、全すべての事こと、命いのち
 の大切たいせつさを知しって欲ほしいです。

平成 23 年 1 月 7 日



～ 子どもたちへ ～

しんさい いのち うば
震災では たくさんの命が奪われました。

ほんとう おねん しかた
本当に無念で仕方ありません。

し な かたがた はんめん
死にたくないのに亡くなってしまった方々がいる反面、

みずか いのち た ぎゃくたい おさな いのち うば
自ら命を絶ったり、虐待によって幼い命が奪われる

こと あと
などという事が後をたちません。

いのち とうと かんが くだ
命の尊さを考えて下さい。

かん くだ
感じて下さい。

いしき
意識して下さい。

あなたたちは ひとりではありません。

かなら ちか だれ
必ず近くに誰かいます。

なや くる たす もと くだ
悩んだら、苦しかったら、助けを求めて下さい。

しんさい な かたがた おねん
震災で亡くなられた方々の無念さを

かんが くだ
考えてみて下さい。

志がんでん

阪神
淡路
あの日、あの時、
大震災と



あの空を地も
街全体が泣いていた
争いながら
やり場のない気持ちで
悪夢であってほしいと
何度思ったことか
あなた生きながら
全観を変えて

高所恐怖症の
夫を
ビビリ腰で
ブルーシートを
張り作業
雨模様風が吹き来た
余震の隙中で



蛇口を巻けば水が出る
スイッチを入れると電気がつかなく
ボタンを押せば電話が通じる
交通機関も自由自在
昨日まであたり前と思っていたと一瞬にして
不可能になった時の泣く泣くパニック状態は
怖いものがありました

当時は命を
おぼはして
言なから
十六年間の月日の
流れの中で
不平不満を
人向って
言ってしまう
勝手にさるものだね
思い出そう月十七日

歴史と悲色を刻んだ大震災は
助け合う心 命の尊さ
相手を感じる 忍耐力
やさしい気持ち
人間にとって大切な
事を多く教えてくれた
だからそあの記憶を、震災の極地から互を直って
未だ水がたと思う。

震災体験の度合いは地域を人によって違って
日常生活が無意識のうちにくり返るのを
何と幸せなことか
当り前であたり前でなかな六月十七日
あたり前に感謝してあたり前で暮らさる白が
これからも続きますように……

犠牲にならな有朱名の尊い命
命ある者 永々に志れず
感謝と共にしかりと生きていこう。
合学

感謝の気持ち（助け合い）

～ 子どもたちへ～

わたしは、^{しんぶんきしゃ}新聞記者として^{はんしん}阪神・^{あわじだいしんさい}淡路大震災や各地の^{さいがい}災害、^{ぼうさい}防災に
ついで^{しゅざい}の取材に^{とく}取り組んできました。

^{だいしんさい}大震災の発生^{はっせい}当時は^{だい}まだ20代で、^{にゅうしゃ}入社^{ねんめ}3年目の^{きしゃ}記者でした。

^{ひなんじょ}避難所となった^{ちゅうがっこう}中学校の^{きょうしつ}教室の^{とびら}扉を^あ開けたとたん、^{なら}ぎっしりと並
んだ^{かん}棺おけが^め目に^と飛び込んで^こきました。その^{となり}隣の^{きょうしつ}教室も、そのまた
^{となり}隣の^{きょうしつ}教室も…。

^{きゅうしゅつかつどう}救出活動が^{つづ}続いた^{かおく}家屋の^{とうかいげんば}倒壊現場からは、^{いきた}すでに^{かたがた}息絶えた方々が
^{つぎつぎ}次々と^{はこ}運び出されて^だいました。カメラを^{かま}構え、メモを^と取る^{こと}しかでき
^{じぶん}ない自分の^{むりよく}無力さを^{かん}感じました。

この^{まち}街は^{こんごなんじゅうねん}今後何十年たっても^{のこ}がれきが残^{ひとびと}り、「人々が^{えいえん}永遠に^{かな}悲しみ
にくれる^{まち}街」にな^{おも}ってしまうのではないかと思^{おも}いました。

あれから^{ねん}16年。街^{まち}の中^{なか}で^{しんさい}震災の^{きずあと}傷跡^みを見^{むずか}つけるのは^{むずか}難しくな^{むずか}りました。
^{ふっこう}それは^む復興へ^{がんば}向^{ひと}けて^{せいか}頑張^{せいか}ってきた人^{せいか}たちの^{せいか}成果^{せいか}でもあるわけ^{せいか}ですが、
^{いっぽう}一方^{とき}で^{なが}時の^{はや}流れ^{かん}の^え速^えさを^え感じ^えざる^えを得^えません。

わたしが^す住^ちむ^{いき}地域^{すうねんまえ}でも、^{まいとし}数年前^{がつ}まで^{にち}毎年^あ1月^ち17日^{はな}には^{はな}空^{はな}き^{はな}地に^{はな}花^{はな}が
^{そな}供^{こうけい}え^みら^{いま}れて^あいる^ち光^あ景^ちが^あ見^あられ^あまし^あた^あが、^あ今^あは^あその^あ空^あき^あ地^あさ^あえ^あほ^あと^あん^あど^あな
^{いちぶ}く^{いれい}なり^ひまし^{こうえん}た。一^{すみ}部^おの^お慰^お霊^お碑^おは^お公^お園^おの^お隅^おに^お追^おい^おや^おら^おれ^おて^おいる^お状^お況^おさ
^おえ^おあ^おり^おまし^おす。

しかし、わたしたちの^{あしもと}足元^{にん}で^{しんさい}6434人、^{えんいん}震災が^な遠^な因^なとなり^な亡^なくな^なった
^{ふく}ケ^{ふく}ース^{ふく}を^{ふく}含^{ふく}め^{ふく}れば^{ふく}さ^{ふく}ら^{ふく}に^{ふく}多^{ふく}く^{ふく}の^{ふく}方^{ふく}々^{ふく}が、^{おお}理^{かたがた}不^{かたがた}尽^{かたがた}な^{かたがた}形^{かたがた}で^{みらい}未^{うば}来^{うば}を^{うば}奪^{うば}わ^{うば}れた
^{まぎ}のは^{じじつ}紛^{いそく}れ^よも^よない^よ事^よ実^よです。^{かたがた}遺^{すうまん}族^{にん}と^{のぼ}呼^{のぼ}ば^{のぼ}れる^{のぼ}方^{のぼ}々^{のぼ}は^{のぼ}数^{のぼ}万^{のぼ}人^{のぼ}に^{のぼ}上^{のぼ}る^{のぼ}で^{のぼ}し^{のぼ}ょう。

わたしたちの周りには、街の復興の速さについていけず、悲しみを無理やり胸の奥に押し込んだままの方が今なお数多くいらっしゃるのも、また事実です。

恥ずかしながら、震災の記憶の風化が指摘される今になってようやく、災害の悲惨さとその中から生まれた支え合いを伝え続けることの大切さを実感しています。

年間の自殺者が毎年3万人を超え、都会の片隅で誰にもみとられずに亡くなり何週間も何カ月も気付かれない人が相次ぐような現状は、一人一人が周囲の痛みに関心を持つことでしか変えられないと思います。

最近、わたしは記事にこう書きました。

「あの日、胸に刻んだ支え合いの大切さを思い起こしたい。

将来の災害に備えるためだけではない。

きょう涙する人を一人でも減らすために」

これからも、皆さんに震災を伝え続けたいと思います。

2011年1月17日

石崎 勝伸 より

～ 子どもたちへ ～

震災を知らないあなたへ、
いくつか話しておきたいことがあります。



一つ目は、人間はえらそうにしてても、決して一人では生きていけな
いということです。

まわりのいろいろな人に支えられ、助けられて生きています。

人間関係は大変だけれど、その分喜びや楽しみも増えます。

さまざまな人と出会い、助け合って生きていくことは、本当に大切で
す。

二つ目はいいかっこをせずに、つらい時はつらい、何かを希望すると
きは、こうしてほしいと相手に伝えることです。

思っているだけでは伝わりません。

口で言っても、手紙に書いてもいいから、自分から発信することです。

お母さんは震災の時、お姉ちゃんが赤ちゃんだったので、色々と困り
ました。でも近所の人が食べる物を持ってきてくれたり、遠くの友達が
ミルクを作るためのお湯を運んでくれました。

本当に感謝、感謝です。

普段はそんなことも忘れて生活していますが、毎年1月17日が近づ
くと助けてもらった人達への感謝の気持ちを新たにします。

平成23年1月6日

～ 子どもたちへ ～

あの時、あなたはお母さんのお腹の中にいましたね。今は、中学3年生。

長く感じた揺れの後、目にした光景は、想像を絶するものでした。神戸の東から西から煙がのぼっている様子を呆然とながめていた事を覚えています。

我にかえってからも、何からはじめてよいのやら・・・お腹の中のあなたを守らないといけないという事しか頭の中になかったですね。時々起こる余震で、不安・恐怖で一人で家にいることもできませんでした。

そんな気持ちを察してか、ご近所のみんながかわるがわる声をかけに来てくれました。本当に心強かったです。

自分の家にまねいてくれて、残っていたご飯でお粥をつくり、量をふやして皆で分けて食べました。そんな人達のおかげで、寂しい気持ちも、あまり感じることなく、すごせたと思います。

毎日が暗い話題しかなかった時に、他人の私にあれだけ優しく接してくれた人達は、これから生まれてくるあなたに、希望の光を見ていたのかもしれないですね。

多くの人に守られて生まれてきた事を、何よりも大切にして、これからの人生を精一杯歩んでほしいと願っています。

平成23年1月7日

なおきの母 より

～ 子どもたちへ ～

忘れられない、忘れてはいけないあの日のこと。子どもたちにはピンと来ないことでしょう。でも神戸に住む子どもたちの大半は、あの日の乗り越えた両親がいたからこそ、今があるのだと思います。

かいじゅうがあらわれたのかと思うような、今まで体けんしたことのない強いゆれ。ねていたベッドは、部屋のすみから移動し、家中の家具はたおれ、床にはガラスなども散乱していました。

何がおこったのかと窓の外をのぞいてみると、となりの家はペシャンコになっていて、夢としか思えない状況になっていました。

たくさんの方が家をなくし、ケガをし、尊い命をうしない、みな悲しみでいっぱいでした。

でも人は一人ではありません。日本全国から海外からそして被害にあった人の中からも、悲しみにつつまれた人々を支えようと、たくさんたくさんの方が神戸に集まってくれました。あたたかい声をかけてくれたり、あたたかい食べ物を用意してくれたり、あたたかい毛布を用意してくれたり。みんなで協力して火を消したこともありました。

たくさんの方のぬくもりが神戸の街を人を元気にしてくれました。

お母さんはあの日の悲しみももちろんですが、あの時の人のあたたかさも忘れられません。

みんなも家族や友達、そして周りのたくさんの方が温かく見守っていてくれることを忘れずに、自分を大切にしてくださいね。

そしてあなた自身も人にぬくもりをあたえていることも忘れずに、自信を持ってあるいて行きましょう。

平成23年1月7日

～ 子どもたちへ ～

震災を通して いちばんに感じたこと。

人にとって お金や物も もちろん大切な物ですが

それ以上にもっと 尊いものは やはり 困っている人を

助けようとする 「人の心、気持ち」 だと思います。

震災のような困難なことに直面したときにさしのべられる

人からのあたたかい手が 何よりありがたかったと記憶しています。

人を動かすものは「何かしてあげたい」という気持ちだと思います。

震災など 大きなできごとは もう起きてほしくはありませんが、

ふだんから 自分のことしか考えない

他人のことだから知らない、というのではなく

少しでも 自分以外の人のことを思いやる気持ちというものを

大切にして 生きていってほしいです。

今現在でも 人は目に見えないたくさんものから守られています。

それを忘れずに 小さいことでもいいから、

まわりの人を助けるように 心がけましょう。

平成23年1月7日

ハッピー母さん より

～ 子どもたちへ～

地震が起きた時、私は中学2年生でした。

早朝だったので、多くの方はまだ寝ていたと思うのですが、私は偶然目を覚ましていました。布団の中でうつぶせになっていたのですが、小さな揺れ始めを感じたのを覚えています。そのすぐ後にももの凄い縦揺れが起こって、何が何だか分からないまま、私達姉妹の上に父が覆い被さってくれていました。

揺れが収まった後、夜が明けてようやく辺りの様子を知る事が出来たのですが、住んでいる家の傾きや、壁の亀裂、周りに広がるガス臭さなど、子供ながら「大変な事が起きたんだ」と思い知らされました。

幸い、家族や友人に怪我などはなかったのですが、住む家も食べる物もない中で、近隣の小学校・中学校・お寺に避難させてもらいました。いただける物は冷えたお弁当やおにぎりだったのですが、食べる物があるという事がとても有難く、大事に食べたように思います。それから家がまた住める状態になるまで、大阪にいる親戚の所でお世話になったり、知り合い知らない人に関わらず、様々な方に助けられました。

震災が起こった事はとても悲しい事なのですが、この事で知る事の出来た人の優しさ温かさは、みんなの心に残っていると思います。

生き残った私達、直接震災は知らないけれど、被災地となった神戸で生まれた人達は、この事を忘れず、学び、震災の恐ろしさを伝えていかなければならないと思います。

そして、毎日を普通に過ごせる事のありがたさや感謝の気持ちを決して忘れてはいけないのだと思いました。

平成23年1月18日

～ 子どもたちへ ～

はや ^{ねん す}
早いもので 16年が過ぎました。

^{とき こうべ ようす し ひと ふ}
あの時の神戸の様子を知らない人が増えました。

^{こんらん なか ひとびと たす あ ちから わたしたち つた おも}
あの混乱の中、人々の助け合う力を、私達は伝えなければと思い、

^{まいとし か}
毎年このメッセージを書いています。

^{かな なか い ゆうき あた ひと}
みんなが悲しい中、生きる勇気を与えてくれたのは「人」でした。

^{きんじょ ひと み し かたがた すく じえいたい かたがた あい て}
近所の人、見知らぬ方々からの救いの手、自衛隊の方々の愛の手、

^{かぞく}
そして 家族。

^{こと きも こころ ささ}
どんな事になっても みんなの気持ちが心の支えとなります。

^{じょうきょう なか あい かん}
あの状況の中、「愛」を感じ

^{た あ}
みんなで立ち上がったのは

^{こうべ わたしたち}
神戸の私達のほこりです。

^{ほか くに こと み たび}
他の国の事をニュースで見ると

^{わたしたち おも}
「私達はすごい！！」と思うのです。



^{あい じぶん ともだち せかい ひと}
愛してください 自分を、 友達を そして 世界の人を

平成 23 年 1 月 21 日

さとっぴかあさん より

～ 子どもたちへ ～

こんにちは。また会えてとてもうれしいです。

震災があったあの日、被害がかかるかった西区でも、そうとう揺れて家の中のものが、次々と落ちてきました。そして揺れがおさまると、すぐ近くの人が家に「大丈夫？みんな大丈夫？」って心配して見に来てくれて、とても不安だったのが、「ぼくたち家族のことを心配してくれている人がいるんだ。」と思うと、とても心強くなって元気が出たのを、はっきり覚えています。

みんなは家や学校で「あいさつをしましょう」ってよく言われると思います。あいさつは今まであまり知らなかった人とも心と心がふれあって、なかよくなれる絶好のチャンスです。

だからね。

近所の人たちにも笑顔で元気にあいさつをしましょう。そしたら近所の人「あの子は元気かな？」って、いつも気にかけてくれるようになります。もしも何かの時だって、あの時のぼくのよういきっと心配して、すぐにかけてくれるはずですよ。

そしてもし、みんなにけががなく安全だったら、ぜひ近所の人たちに「大丈夫ですか？」って声をかけに行きあげてください。それだけで多くの傷ついた人の心が救われるのですから。

みんなは、だれにも助けられながら生きています。だからみんなも、だれもを助けられる人になってくださいね。

じゃあ、またね。

平成23年1月17日

小田 隆司 より

～ 子どもたちへ～

・・・ ^{ねが}お願い ・・・ ^{たす}助けて ・・・

^{だれ たの}いつ誰に頼むかわからへん。

^{さいきん こ なに かんが}最近の子は、何を考えてるかわからん



・・・ ^きだから、聞いて？ ・・・ ^{おし}だから教えて。

おじちゃんが ^ついつも連れてくる ^{いぬ なまえ なん}犬の名前はなんていうん？

ちょっと ^{さわ}触ってもいい？

おばちゃんが ^さきれいに咲かせている ^{はな なん}その花はなんていうの？

^{わたし え す}私は 絵をかくのが好きなんやで。

^{むし だいす}ぼくは 虫のことが大好きやねん。

いっぱい ^{はなし}お話ししよう。 ^{おな こうべ す}同じ神戸に住んどんやもん

^{まえ たす あ}あたり前に 助け合おう

^{ことば つた}きちんと 言葉で 伝えあおう。

平成23年1月20日

おかあちゃん より

～ 子どもたちへ ～

いま わたし つま ふたり おすすめ かこ ぶんしょう
今、私は妻と二人の娘とダイニングテーブルを囲み、この文章を
か
書いています。

はんしん あわじ だいしんさい ねん さいげつ
阪神・淡路大震災から16年の歳月がたちました。

とうじ わたし さい こうこう ねんせい
当時、私は18歳、高校3年生でした。

そつぎょうご しんろ き あと そつぎょうしき こうこうせいかつ お
卒業後の進路も決まっており、後は卒業式だけの、高校生活も終わ
りというところでの被災でした。

じしんちよくご いま せいかつ いっぺん でんき すいどう
地震直後から、今までの生活は一変しました。電気、ガス、水道、
あたりまえのもの でんしゃ うご つうがく で き
あたりまえの物がなく、電車やバスも動いておらず通学も出来ません
でした。

そら み あ かさい ほのお けむり うすあか み ひど
空を見上げると火災による炎と煙で薄赤くよどんで見え、酷く
ふあん き も いま おぼ
不安な気持ちになったのを、今でもハッキリと覚えています。

じしんらい わたし いまじしん なに かんが
地震以来、私は、今地震がおきたらまず何をするべきかをよく考
え
る様にしています。

ちい こと かぞく いばしょ ひ け かくにん かぞく しめ あ
小さな事ですが、家族の居場所、火の気の確認、家族で示し合わせた
ひなんばしょ かくにん
避難場所の確認などです。

しあわ せいかつ で き つま ふたり おすすめ まえぶ
幸せにあたりまえの生活が出来る妻と二人の娘に、なんの前触れ
もなくどこでも自然の恐怖は起きるといふ理不尽さを教えていき
たいと思ひました。

平成23年1月23日

住本 健二 より

～ 子どもたちへ ～

わたし はんしん あわじだいしんさい とき さい まった
 私は、阪神・淡路大震災がおこった時は、まだ2才だったので、全
 きおく のこ
 く記憶には残っていません。

じっさい じょうけい つた おや まわ
 だから、実際の情景など、伝えることはできませんが、親や周りで
 きおく のこ かたがた たいへん ひがい しんこく つた
 記憶に残っている方々から、大変だったと、被害の深刻さを伝えても
 ば きおく のこ あたま なか しんさい
 らい、その場の記憶が残っているかのように、頭の中に震災のことが
 のこ
 残っています。

はんしん あわじだいしんさい ぎせいしゃ かた いま い
 このように、阪神・淡路大震災の犠牲者の方のぶんも、今、ここに生
 かんしゃ わたし しんさい つた
 きておれることを感謝し、私も、この震災といったものが、ずっと伝
 おも てがみ か
 えていけることができるといいなと思い、この手紙を書きました。

しんさい できごと か こ できごと のこ
 震災という出来事を“ただの過去の出来事”として残していってはい
 ひがい しんこく
 けません。どのような被害があったのか、どれだけ深刻だったのか、そ
 なかみ せんめい つた おも こ
 の中身を、鮮明に、伝えていかなければいけないと思います。子どもた
 じっさいけいけん かんしん
 ちのみなさん、実際経験していないからといって、関心をもたないの
 けいけん かたがた
 ではなく、まわりには、たくさん経験をしてこられた方々がいるので、
 かた はなし
 そういった方に、話をしてもらってください。

つぎ せだい ひと しんさい つた
 そして、また次の世代の人たちにも、震災というものを伝えていって
 ねが
 ください。 お願いします。

平成22年12月17日

高校生 より

～ 子どもたちへ ～

① 水を大切に使う事

みず たいせつ つか こと

とうじの みず こと
当時飲み水はもちろんのこと

た みず たいへんこま
トイレその他 水に大変困った。

い どみず すな すな しず うわみず
井戸水、砂まじり、砂が沈んでから上水を
の
飲んだ。



② 日頃から整理整頓をする事

ひごろ せいりせいとん こと

じぶん ももの まわ せいり
自分の持ち物はもちろん、回りをきちんと整理しておく。

③ 仲良くする事

なかよ こと

がっこう ようちえん かぞく きんりん ひとたち ひごろ なかよ
学校、幼稚園だけでなく、家族、近隣の人達と日頃から仲良くし

さいがいじ たす
ておく。災害時には助けてもらえる。

④ 防災グッズを用意しておく事

ぼうさい ようい こと

さいてい かかんぐらい いんりょうすい
最低3日間位の飲料水（ペットボトル2L）、カンパン（ビスケ

るい でんとう けいたい でんわなど
ット）類、電灯、携帯ラジオ、電話等。

ひつよう おう かぞくすう あ にんかぞく
あとは必要に応じて、リュックに家族数に合わせて、5人家族な
ら5セット、4人家族なら4セット必要。

⑤ 防災避難訓練に参加する。（学校、町内他）

ぼうさいひなんくんれん さんか がっこう ちょうないほか

⑥ 自助、共助、公助

じじょ きょうじょ こうじょ

じぶん じぶん まも
自分のいのちは自分で守る。

じぶん い ひと たす こと で き
自分が生きていなければ、人を助ける事が出来ない。

平成23年1月25日

西 雅一郎 より

わたし自身は震災のことを全く覚えていません。まだ生まれてもいませんでした。ですが、周囲の人々から聴かせていただくお話でほとんど全てと言っていい程出てくる言葉が「近所や地域の人達との助け合い」です。

皆が自分の家でくらす事ができなくなり、避難所での生活を余儀なくされました。少ない物の中で自分のためだけにみんなが生活することはできません。助け合って少しずつみんながガマンしなければ生きていく事ができない環境だったそうです。そうしなければ争いがおき、わずかな強者だけが良い思いをするという、とても不平等なことになってしまいます。皆がそれを分かっている行動して……。それが当たりまえのようですが、他の国では食べ物をうばいあい、なぐりあい、ケガ人が出てしまう所もあったそうです。とても、ひどく悲しい事だと思えます。でも、これは他人事では済ませられないようにも思えます。

災害が起きてない今、平和に日常生活が送れている中で、私達は他人のために行動できているのでしょうか。私はできていないように思えます。自分が楽しければそれで良いと、自分中心の考え方になっている人が多いように思えます。あの震災があった時、助け合っ、相手の事を考えて動けたように、今もできると思えます。

自分を犠牲にして、とは言いません。でも、1人1人みんながもう少しずつ周りの人に対して優しくなれたら神戸はもっと良い街になれると思えます。

2010年12月19日

西江 真友子 より

子どもたちからの感想文

平成21年度中に寄せられたメッセージを協力校とな
っていた学校にお届けしたところ、友が丘中学校・
福田中学校より、たくさんの感想文をいただきました。
その中からいくつかの感想文をご紹介します。



友が丘中学校 芝 峻明

地震や大洪水の波など大きな災害では、人間はどうする事も出来ない事もあるんだなあと思いました。だからこそ、人はおたがいに助け合う思いやりの心が大切なんだなあと思いました。

ぼくの身近でも母の伯母さんが亡くなったそうです。母は自宅のあった長田区から灘区王子体育館まで、会いにいったそうです。体育館にはたくさんの人たちの遺体が並んでいたそうです。

ぼく達、残された人々は、その深い悲しみを乗り越えて、より良い神戸の街を作っていくかといけなうと思いました。

友が丘中学校 高山 真緒

私はこのメッセージを読んで、「感謝の気持ちを持って、一日一日を大切にしたい」といったようなメッセージが多かったと思いました。私はできるだけ感謝の気持ちは伝えるようにしているけど、一番身近なお母さんには感謝の気持ちをあまり伝えられていないと思います。

メッセージの中にあつたように、地震で身近な人をなくして、感謝の気持ちを伝えられなかつた人もたくさんいたと思います。いつでも言えるからと思わずに、そのような人たちの分も感謝の言葉を伝えるようにしたいと思いました。

友が丘中学校 宮田 可奈

わたし なか しんさい
私の中で震災はこわくておそろしいものでした。もちろん今もその思いは変わっていません。でもそんなイヤな話と同じくらいステキな話があると知りました。

しんさい みな あいて おも ところ ひと おも ひっし
震災のときは皆が相手を思いやる心が一つになったんだと思いました。必死で人を助けようとしたり、ボランティアが食料をわけたり、話を聞いているだけで心があたたまりました。

いま しょくりょう じぶん い まえ かん
今は食料があるのも、自分が活着ているのもあたり前に感じていました。でも本当はあたり前じゃなくて幸せなんだと思いました。

このメッセージを聞いて、震災について、人のいのちについて真剣に考えるきっかけとなりました。この震災で亡くなった人たちの分もこれからの人生を大切に過ごしていきたいと思いました。

福田中学校 川崎 奈々加

これを読んで、『助け合い』とか『協力』という言葉がたくさんでてきているな、と思いました。でも、ただ『助け合い』や『協力』という言葉を使っているわけじゃなくて、この文の中には、大きな決意や感動、感謝の気持ちがいまざっているのが分かりました。それに、普段できていたことが、あたりまえにやっていたことが出来なくなると、とても不安に感じます。その、きょくげん状態の中で『人と人とのつながり』にふれられたのは、少しの安心につながったのではないかと私は思います。

じしん とき
「地震はおこってほしくないけど、おきてしまった時、どうすべきか？」

ほんとうによく、考えさせられました。

舞子高校生からのメッセージ

- 県立舞子高校環境防災科の生徒のみなさんから

たくさんのメッセージをいただきました。

その中の2通をご紹介します。



地震が起きたとき私はまだ生まれて4ヶ月でした。

その時の記憶は当然ながらありません。

でも母から教えてもらったことを書かせていただきます。

「地震で家はぐちゃぐちゃになった。

何がなんだかわからなくなった。

外に出たら真っ暗。でも街の様子が瞬時でわかった。

その時無意識のうちに、倒壊した家に行き、近所の人と

一緒に生き埋めになっている人を助けにいていた。

無我夢中で、ただ記憶に残っていること。

“絶対助ける” という気持ち」

みなさん、近所の人たちと会話をしていますか？

それだけで助かる命はたくさんあります。

小さなことがこの世で一番大切なものを救います。

2010年12月20日

河野 沙耶 より

福田中学校 加藤 慎吾

「子どもたちへ」のメッセージ集の中に、いままで話をしたことも顔を見たこともない人と協力して人を助けたという文がありました。

僕はこの文を読んで人間は強いなあと思いました。普段の生活の中でぜんぜん知らない人と話すことはあんまりないと思います。でも震災のときは、まったく知らない人と一緒に、知らない人を救助する人がいました。

震災のときなど、多くの人が困っていたら、知らない人とでも簡単に協力することができる、やはり人間はすごいと思いました。

福田中学校 長井 華穂衣

震災当時、私はまだ影も形もありませんでした。ですが、このようなものを読むと、著者の記憶の中にあるものが鮮明に伝わってくる気がします。その一言一言が頭に語りかけてくるようで、読むことをやめたくなくなるほどつらくなります。

特に印象に残ったのは、消防士さん達の書かれたものです。救命の現場にただけあって、助けられなかった人も多くいたということで、その時の気持ちを考えると、とてもやりきれない気持ちになります。目の前で苦しんでいる人を見捨てて平気なはずがないのです。もし、自分が消防士であったらということを考えさせられます。

日本は地震の多い国のために、また同じことが繰り返されるかもしれません。その時、自分はどうかということを考えていかなければならないと思います。



じしんにもまけない つよ いころをもって なく
ついたこうべを もとのすがたにもどそう ささ



なつたかたがたの ぶんもまい にちをたいせつに いきていこうきず
えあうところと あしたへのきぼう



うをむねに ひびきわたればくたちのうたう



まれかわるこうべのまちに とどけたいわたしたちのうたしあ



わせはこべるように

- 一、地震にも 負けない 強い心をもって 亡くなった方々のぶんも
 毎日を 大切に 生きてゆこう
 傷ついた神戸を 元の姿にもどそう
 支え合う心と 明日への 希望を胸に
 響きわたれ ぼくたちの歌 生まれ変わる 神戸のまちに
 届けたい わたしたちの歌 しあわせ 運べるように



- 二、地震にも 負けない 強い絆をつくり 亡くなった方々のぶんも
 毎日を 大切に 生きてゆこう
 傷ついた神戸を 元の姿にもどそう
 やさしい春の光のような 未来を夢み
 響きわたれ ぼくたちの歌 生まれ変わる 神戸のまちに
 届けたい わたしたちの歌 しあわせ 運べるように
 響きわたれ ぼくたちの歌 生まれ変わる 神戸のまちに
 届けたい わたしたちの歌 しあわせ 運べるように
 届けたい わたしたちの歌 しあわせ 運べるように



～ さいごに ～

このメッセージは、阪神・淡路大震災を知らない・よく覚えていない子どもたちに、命の尊さや震災の教訓を語り継ぐために寄せられたものの一部です。

このメッセージが子どもたちの心に届きますよう、みなさまのご協力をお願いいたします。

子どもたちへのメッセージ運動の概要

「子どもたちに伝えたい、阪神・淡路大震災に関連する経験や思い」をテーマとして、震災のときに生まれた子どもたちが大人になるまで、毎年、メッセージを募集し、伝えつづけていく予定です。

▶ 16年度から22年度の実績

年度	メッセージ募集期間	応募数(通)	メッセージ運動展	メッセージ集
16年度	平成16年4月 ～平成17年1月	557	平成17年3月17日～30日	2005
17年度	平成17年2月 ～平成18年1月	256	平成18年3月17日～30日	2006
18年度	平成18年2月 ～平成19年1月	222	平成19年3月17日～26日	2007
19年度	平成19年2月 ～平成20年1月	173	平成20年3月18日～27日	2008
20年度	平成20年2月 ～平成21年1月	153	平成21年3月17日～26日	2009
21年度	平成21年2月 ～平成22年1月	200	平成22年1月17日～28日 3月17日～26日	2010
22年度	平成22年2月 ～平成23年1月	119	平成23年1月12日～23日 3月23日～30日	2011

▶ 23年度の実績

前年度同様に、メッセージを募集しています。

詳細は、神戸市のホームページをご覧ください。下記までお問い合わせください。

ホームページ検索

お問い合わせ先：神戸市保健福祉局総務部人権推進課 電話 322-5234

《子どもたちへのメッセージ運動の活動にご協力いただいた方々》(五十音順、敬称略)

絵手紙「栄」フレンズ、絵手紙わかば、クリスタル・ベル、神戸市PTA協議会、神戸市立幼稚園PTA 連合会、神戸市立小学校PTA 連合会、神戸市立中学校PTA 連合会、神戸市立高等学校PTA 連合会、神戸市立盲・養護学校PTA 連合会、神戸学院大学地域研究センター、神戸市混声合唱団、神戸市老人クラブ連合会、神戸デザイナー学院、神戸ヤングクリエイティブクラブ、サークル紙ふうせん、スタジオ・チーズ、大日通周辺地区まちづくりを考える会、日本赤十字社兵庫県支部声の図書赤十字奉仕団、NPO法人ふたば

《これまで協力校となっていた学校》

有野東小学校、池田小学校、板宿小学校、井吹西小学校、会下山小学校、榎野台小学校、春日野小学校、高津橋小学校、小寺小学校、塩屋小学校、長田南小学校、稗田小学校、兵庫大開小学校、本庄小学校、湊川多聞小学校、本山第二小学校、若宮小学校、井吹台中学校、楠中学校、鷹匠中学校、鷹取中学校、飛松中学校、友が丘中学校、長坂中学校、長峰中学校、蒼合中学校、福田中学校、本庄中学校、本山中学校、丸山中学校、兵庫県立舞子高等学校

<参考資料>神戸市「阪神・淡路大震災 被災状況及び復興への取り組み状況」
(平成23年1月1日現在)より抜粋

神戸市の被災状況等

震災は、多くの命を奪うとともに、都市基盤や建築物に甚大な被害を与え、市民に直接的な大被害を与えた。また、復旧の長期化に伴い、産業、都市機能、生活などに様々な影響を及ぼしている。

<p>(1) 市民生活への被害</p> <p>① 多大な犠牲者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・死亡者 4,571人 (H17.12.22) ・不明 2人 ・負傷者14,678人 (H12.1.11) ・高齢者(60歳以上)が死亡者の約59%* ・家屋倒壊による死者多数(窒息・圧死が全体の約70%*) <p>※ 高齢者、家屋倒壊による死者の割合は、平成17年12月22日現在(死者4,571人)での割合 (ただし、窒息・圧死の割合は直接死3,895人での割合)</p> <p>② 避難</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピーク時：箇所数599箇所 (H7.1.26) 避難人数236,899人 (H7.1.24) 避難所就寝者数222,127人 (H7.1.18) <p>③ 公共施設の被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所、病院等の重要公共施設の破損、倒壊 <p>④ 学校教育・社会教育・文化施設の被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校園の約85%が被災 ・博物館、中央図書館旧館、ポートアイランドスポーツセンター等の破損、倒壊 ・酒蔵、異人館等の破損、倒壊 <p>(2) 都市機能の被害</p> <p>① 建築物、構造物の被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全壊67,421棟、半壊55,145棟 (H7.12.22現在) <p>② 火災による焼損(確定値)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全焼6,965棟、半焼80棟、部分焼270棟、ぼや71棟 ・延べ焼損面積819,108㎡ ・火災件数175件(震災とほぼ同時に54件発生) <p>③ 交通ネットワークの寸断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阪神高速道路3号神戸線、同5号湾岸線等の倒壊 ・陥没、高架構造物の落下、建築物倒壊等による道路不通 ・鉄道の寸断 ・海上都市へのアクセスの寸断 <p>④ 港湾施設等の被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンテナバース、岸壁等がほとんど全て使用不能 ・港湾幹線道路の寸断 <p>⑤ 埋立地の液状化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東部2～4工区、ポートアイランド等で液状化 <p>⑥ ライフラインの寸断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気 市内全域停止 (応急復旧に要した期間 7日間) ・電話 約25%停止 (応急復旧に要した期間15日間) ・水道 市内ほぼ全域停止 (応急復旧に要した期間91日間) ・工業用水道 市内全域停止 (応急復旧に要した期間84日間) ・ガス 約80%停止 (応急復旧に要した期間85日間) ・下水道 管渠・ポンプ場破損、処理場の機能低下(2/7箇所)及び機能停止(1/7箇所) (応急復旧に要した期間135日間) ・クリーンセンター 全クリーンセンターの運転停止 (応急復旧に要した期間35日間) 	<p>⑦ 公園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1/3の公園が擁壁崩壊、舗装陥没、地割れ等の被害 <p>⑧ 河川</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二級河川 117箇所破損 ・準用・普通河川 27箇所破損 <p>⑨ 治山・砂防</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急復旧を要する箇所 68箇所 <p>⑩ 社会・産業面の資本ストック全体の損害額(推計値)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約6兆9千億円 <p>(3) 神戸産業の被害</p> <p>① 基幹事業所及び製造大手企業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本社等中枢建築物の倒壊 ・生産ラインの停止 <p>② 中小企業・地場産業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケミカルシューズ 約80%が全半壊または全半焼 ・清酒造 50%以上の企業が全半壊 <p>③ 市場・商店街</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧市街地の商店街の約1/3、市場の約半数が甚大な被害 <p>④ 観光・コンベンション施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光施設、宿泊施設、コンベンション施設などで建物損壊などの被害 <p>⑤ 農漁業施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁港、漁船だまり、農地、農業用施設等が多数被害 <p>(4) その他</p> <p>上記の直接的被害にとどまらず、避難所生活に伴う精神的疲労や子ども・高齢者・障害者等への心理的影響、学校等教育機能の低下、ライフラインの復旧の遅れや交通渋滞などによる都市機能の低下、雇用の不安定化など、市民の生活に対して様々な面で、震災が影響を及ぼすこととなった。</p> <p>また、産業面においても、企業の市外への移転や被災による生産量の低下、港湾施設の被害に伴うコンテナ貨物の他港へのシフト、高速道路の寸断や復旧工事による交通容量の不足等により、神戸のみならず、日本経済へ深刻な影響を及ぼすこととなった。</p> <p>さらに、大量の災害廃棄物処理や、これに伴う環境への影響など、震災がもたらした被害は、広範囲で多方面にわたる深刻なものとなった。</p> <p>(5) 旧避難所等・仮設住宅・災害廃棄物処理について</p> <p>① 旧避難所</p> <p>避難所は平成7年8月20日で終了し、待機所を平成9年3月31日まで運営。</p> <p>② 仮設住宅</p> <ul style="list-style-type: none"> ○建設戸数 32,346戸 (市内29,178戸、市外3,168戸) ○撤去状況 全敷地原状復旧済。 <p>③ 災害廃棄物処理(平成10年3月末最終)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実績 解体済 61,392棟(100%)
--	--

～命の尊さと震災の教訓を語り継ぐ～

「子どもたちへのメッセージ運動」の取り組みをご紹介します

子どもたちに命の尊さと震災の教訓を語り継ぐため、平成16年4月に運動を始めました。
平成22年度までに1,680通のメッセージが、寄せられました。

2月～翌年1月
メッセージを募集



1月中旬～下旬
メッセージ運動展
(市民ギャラリーにて)



9月～翌年1月
子どもたちに届けます



発行：平成23年11月

発行者：神戸市・神戸市教育委員会

編集：神戸市保健福祉局総務部人権推進課 電話 078-322-5234

協力：神戸市教育委員会指導部人権教育課 電話 078-322-5807

〒650-8570 神戸市中央区加納町6丁目5番1号

広報印刷物登録平成23年度第226号A-1

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。



みんながやさしいまち、
みんながやさしいまち神戸